

平成 28 年 3 月 2 日

## 博士論文審査報告書

札幌市立大学大学院  
看護学研究科長 中村 恵子 様

### 看護学研究科博士論文審査会

審査員（主査）	松浦 和代
審査員（副査）	スーディ神崎 和代
審査員（副査）	中村 恵子
審査員（副査）	青森県立保健大学 佐藤 秀一

学位申請者氏名	檜山 明子	学籍番号	1275004
申請学位	博士（看護学）	専門分野	実践看護学
論文題目	入院患者の転倒予測を目的とした転倒リスク行動アセスメントツールの開発 Development of Fall Risk Behaviors Assessment Tool for Fall Prediction of Inpatient		
審査日程	博士論文審査：平成 28 年 1 月 26 日（火） 公開発表会：平成 28 年 2 月 12 日（金）		
審査結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格		

## 審査結果の要旨

本論文の研究目的は、入院患者の転倒予測を目的とした転倒リスク行動アセスメントツールの開発であった。研究デザインは質的研究デザインと量的研究デザインを相補・発展的に組み合わせた。研究は、研究 1：転倒事例の質的分析による入院患者の転倒リスク行動の解明、研究 2：転倒リスク行動アセスメントツール案の作成と妥当性・信頼性の検討、研究 3：転倒リスク行動アセスメントツールの作成と評価、から構成され、段階的に遂行された。

予備審査（平成 27 年 12 月 16 日実施）を経て、博士論文審査（本審査）（平成 28 年 1 月 26 日実施）が行われ、最終論文の提出に至った。審査会は、本審査の指摘事項に対し、最終論文においてほぼ適切な修正が行われたことを確認した。

研究の主題である「転倒リスク行動アセスメントツールの開発」は、看護実践の質向上に貢献する重要なテーマである。本論文は、膨大な臨床データを用いて国内転倒事例の複雑多様な行動特性構造を抽出し、多変量解析を含む適切な統計処理を行うことによって信頼性と妥当性の高いアウトカムを導き出した。転倒事例の行動特性に着目した点が独創的である。

本研究の背景には、転倒の予測精度の向上を求めて種々改変される「ツールの専門分化」が、他方、「エンドポイントを共有し比較考量することを困難にしている」という実態がある。現行のツールが機能レベル因子から構成されるのに対し、本論文は、身体・認知機能から形成される行動特性因子を採用した転倒リスク行動アセスメントツールの開発を行い、「ツールの一般化」において二律背反する汎用性と精度の双方を高めた。その着眼に新規性が認められ、臨床と研究での共通プラットフォームとしての実践的活用が期待される。

本研究では、内容妥当性・構成概念妥当性・基準関連妥当性について綿密な検討と論理的な考察がなされた。開発した転倒リスク行動アセスメントツールの転倒予測精度は、感度 80.0%、特異度 74.8%と高い数値を示している。しかし、重大な事象である転倒を防止するという本ツールの使命を鑑みると、今後、さらなる予測精度の向上に向けて、交絡因子が存在する可能性についても検討されることを期待する。また、得られた方法論は次の研究段階へと活用可能であり、対象者の年齢による適応限界の再検討、在宅や他施設への外挿可能性の探求等の発展性が展望され、意義深い。

本論文は博士論文審査の視点および博士論文審査基準を満たす内容であると判断する。また、学位申請者は、論文内容を十分に把握しているとともに高い説明能力を有していることを審査の全過程ならびに公開発表会において確認した。

以上のことから、本審査会は、本論文を博士（看護学）の学位にふさわしい内容と評価し、博士研究論文として「合格」と判定する。